せんてんせい おうかくまく

先天性横隔膜ヘルニア

医学研究所北野病院 小児外科

先天性横隔膜ヘルニアとは?

先天的に横隔膜に孔が空いていて、胎児期からおなかの臓器が胸の中に入り込んでいる疾患です。胸の中におなかの臓器があるので、肺が大きく発達できません。胎児期は臍帯(へそのお)から酸素をもらっているので問題はありませんが、出生後は自分の肺で呼吸をする必要が出てきます。その為、生後すぐから呼吸の問題が出現します。程度によっては生命にかかわる疾患です。



左の胸の中に腸が入り込んでいます

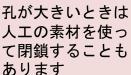
治療は?

胎児期に診断がついている場合は、産科、新生児科、 小児外科合同で計画的に治療を進める必要があります。 まず生後NICUで呼吸や循環の管理を行います。全身状態が少し落ち着いたら手術で胸に上がったおなかの臓器 を戻し、横隔膜の孔を閉鎖します。横隔膜の孔が小さい 場合は、傷の小さな胸腔鏡手術を行うことも可能です。





横隔膜の孔を 縫合閉鎖します





手術後は?

一般的に手術後もしばらくはNICUで人工呼吸の管理が必要となることが多いです。 肺が膨らんで、赤ちゃん自身の呼吸でいけそうなら人工呼吸器が外せます。